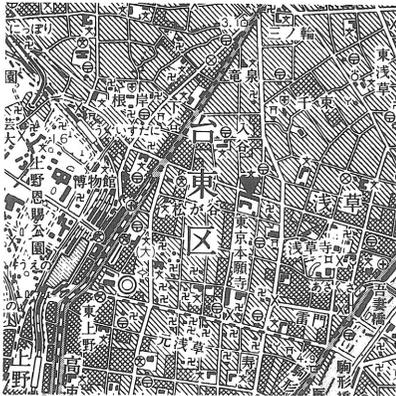


東京・浅草芝崎町遺跡

あさくさしばざきちょう

- 1 所在地 東京都台東区西浅草三丁目
- 2 調査期間 一九九八年(平10)八月～一九九九年二月
- 3 発掘機関 台東区文化財調査会
- 4 調査担当者 小俣 悟
- 5 遺跡の種類 武家屋敷跡他
- 6 遺跡の年代 古代～近世
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(東京東北部)

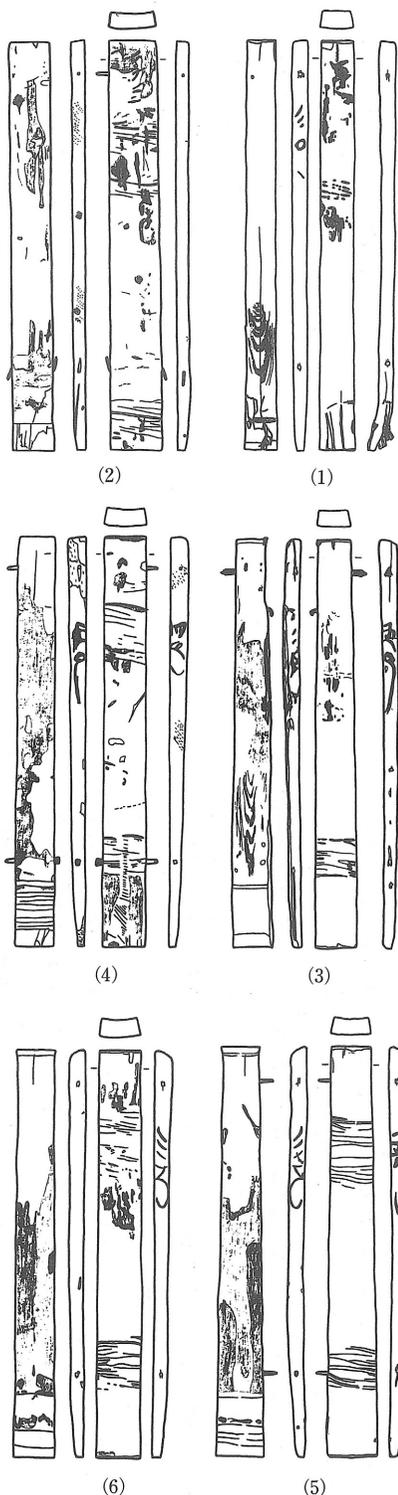
浅草芝崎町遺跡は、台東区の中央、武蔵野台地東端の上野台と隅田川の中間に位置し、東京低地西側に立地する。本調査は、台東区生涯学習センター建設に伴う調査である。

当地周辺は、近世以前には千束池などの湿地が広がっていたと思われるが、中世末頃から近世初め頃には水田化されていた可能性があり、その後整地されたようである。調査地は江戸時

代前半は「井上中務小輔」、後半は「小笠原帯刀」の屋敷であった。調査以前は廢校になった小学校地であり、発掘はそのグラウンドを対象とした。主要な確認面が三面あり、遺構は建物基礎・溝・土坑などを検出した。また最下層には牡蠣の堆積層が確認されている。遺物は漆器碗・飾りなどの木製品のほか、多量の近世陶磁器、中世陶器、古代の須恵器などが出土している。

8 木簡の積文・内容

- (1) ・「壹□□」
1360×120×52 061
(左側面)
- (2) □□□□
1360×140×40 061
- (3) ・「五□□」(右側面)
・「三□□」(左側面)
1360×140×58 061
- (4) ・「四□□」(右側面)
・「五□□」(左側面)
1360×140×60 061
- (5) ・「五□□」(右側面)
・「三□□」(左側面)
1360×160×52 061
- (6) 「三□□」(右側面)
1360×150×56 061



これらは井戸枠に墨書があるものである。これらの井戸枠は発掘調査区域外の旧校舎内の地下約5mより、工事中に発見されたものである。桶状に材を縦に並べて、竹製合釘で合わせ、竹製タガで締めていたようだ。なお(5)と(6)は接合していた。墨書は表面及び側面の上部にみられるが、必ずしも全ての面に墨書があるわけではなく、表面は無論、側面にもない場合もある。表裏面は基本的に黒く塗られているが、塗料がほとんど見られないものもある。また、材はみな、下部の表裏面を削って先端を尖らせているが、これは地中に打ち込むためと思われる。そうであるならば、井戸枠の最下段の部材であることになろう。またその場合、(1)の表面の「壹□」は、井戸枠の段数を示すもので、最下段を「壹」としているのだろうか。

それならば墨書は「壹番」とも推測される。側面の墨書は、継ぎ合わせる時の目印（合印）とも想定される。ちなみに(5)(6)の接合面は共に「三□」である。いずれも、数字と記号・文字の組み合わせ（一あるいは二字）になろう。他例で「数字＋「丈」」（墨田区江東橋二丁目遺跡調査団『江東橋二丁目遺跡』一九九九年、本誌未収）や「数字＋「者ん」」（番）（港区汐留遺跡〔斉藤進氏のご教示〕、本誌第一九号）の例がある。年代は近世の可能性が高いが不明である。

9 関係文献

台東区教育委員会『台東区の遺跡 第二改訂版』（一九九九年）

同『台東区文化財百五展考古リーフレット』（一九九九年）

（小俣 悟）